

第3回福野まちづくり検討委員会議事録

日時：令和6年1月25日（木）19:00～20:30

場所：福野体育館 第2会議室

事務局 第3回福野まちづくり検討委員会の方を開催する。開会に先立ち会長からご挨拶
いただきたい。

会長 雪が降り始め、寒い日になったが、お集まりいただいたことに感謝申し上げる。本
日は第3回の検討委員会ということで、お集まりいただいた。前回の検討会議は
昨年9月20日に実施した。事業計画策定に向けた業務報告の内容が現実的に問
題あると判断された後、発注方式を代理人方式に変更する新たな方法についての
提案もあった。今回は、前回の内容を見直し検討した結果をお伝えすることとなる。
皆さんからのご意見をお待ちしている。経済情勢が厳しくなり、物価が上昇し、さ
らに震災が発生したため、私たちが置かれている社会状況は容易ではない。検討ば
かりで進展が見られないことも問題である。この点も踏まえ、次へ進むための皆さ
んの意見をいただきたい。

事務局 資料を基に協議事項について説明

会長のあいさつにあった通り、長い間議論を重ね、富山紡績跡地には民間からも活
用の相談がいくつか寄せられている。それだけ価値を生み出す場所と考えている
ため、可能な限り早く事業展開に移行したいと思っている。地域に賑わいが生まれ
ることは、非常に好ましいと考えている。ここで示したのは完成したものではなく、
一般的な案として提示されたものである。また、市民センターの面積や交流センタ
ーの入居の有無、会議室などは、案として示したに過ぎず、決定事項ではない。こ
の点も考慮し、仕様を決定した上で、可能な限り実施したいと思っている。当然、
まちづくりに関する資金も出しているので、地域の賑わいにつながり、皆さまに納
得していただける事業者でなければ支援は難しいと考えている。

委員 A 当初の計画では12月に住民説明会予定されていたが、今後の予定に記載がない。
住民説明会はすべきだと思っている。どの時点で実施するか？

事務局 2月末にある程度仕様が固まったところで説明会を開きたいと考えている。しかし
ながら、福野地域からの要望書の回答で示した通り、各地域協議会においても現在
の状況を地域の皆さんに対して、ぜひ説明をお願いしたいと考えている。

委員 A 説明をバラバラにすると混乱を招くため、一括して行うべきだと考え、交流センタ
ーについて職員には一切伝えていない。個別に説明してもよいのか。

事務局 どんな形式で行われるべきか、どの形式が最適なのかをまず皆さんのご意見を伺
ってから決定したいと思う。スケジュール調整を行い、合意が取れ次第、実施する。
今年度中に開催する。ただし、3月までに調整が必要であれば、今年度中の開催は

難しい。

委員 B 代理人方式で実施することは、前回の会議で決定したのか。

会長 代理人方式の提案と説明があり、意見も出されたかと思う。私の方では代理人方式で進めるということで検討していただくという結論が出たと認識している。

委員 B 代理人方式で実施された事業は、日本でも極めて少ないかと思われる。これはさまざまな問題点が存在し、そのため少ないのではないかと思われる。長所短所が存在するので比較検討するのはどうか。代理人方式であれば、役所との関係が明瞭に分離するため、役所としては極めて都合が良いと推察されるが、第三セクターなど、市として創設しないとすれば、その他の方法は存在しないのか。

事務局 PFI 方式にもさまざまな手法が存在するが、基本的には市が必要な何かを要望し、それを建設し、使用料を支払う方式になる。しかし、今回は市民センターや交流センター以外については、住民に委ねている。地域が主体となって実行する事業を応援したいため、代理人方式が最適だと考えて提案している。

委員 B 代理人方式におけるメリットとデメリットは何か。代理人が破綻した場合の対応はどうか。市民センターも関与しているのに、単純に民間事業者の責任だというのは、非常に無責任ではないか。

事務局 そのため、この提案が最も重要だと考えている。元からの調査報告で極めて厳しいという結果が出ているため、今回は代理人方式でまずは事業計画を作成していただくことになっている。実現可能な計画でなければ、市や地域が認めることはない。そのような提案をいただける事業者を選定したいと考えている。

委員 B 100%ではないのではないのか。

委員 A 市民に迷惑を掛けるというリスクを負うことは、市として良いのか。

事務局 その点は、代理人方式以外でも同様である。

委員 A 市で建設するのが良いのではないのか。

事務局 市では新たな公共施設は建設しない。だが、既存の公共施設には入ることが可能。万一破綻した場合、別の場所への移転が必要となる。その場合、移転による迷惑がかかる可能性があるため、ここで協議していただきたい。今回、複合施設に入れないというのであれば、別の場所を探すことになる。そうすると、若手メンバーの構想に価値があるのかという問題になる。

委員 A 仕様におけるところでは、市民センターや交流センター以外は、民間事業者が考案する、と理解して良いのか。

事務局 民間事業者の収益を上げるものを建設することになるだろう。そのため、住民説明会では人々を集めるテナントを誘致して開発するということができない。

委員 A 民間の開発部分について、図面のままに信じてしまう可能性もあるため、図面は出さないほうがよい。

委員 C 説明会はどのようなものになるのか。

- 事務局 市民センターや交流センターを含む複合施設が設立されるという説明である。どのような活動に取り組むのかという説明は必要であると考えている。
- 委員 A これまで方針が二転三転し、住民が理解できない状況が生じている。その点が理解できるよう説明してほしいと思う。また、「若い世代の理解が得られること」について、具体的にどのように実現するのか教えていただきたい。
- 事務局 業務報告書が提出された後、ワークショップで若い世代と一緒に報告会を実施し、認識を共有できている。また、必要であれば若い世代向けの説明会を開催する。
- 委員 B 代理人方式で実施するのであれば、その利点と欠点を明示し説明していただきたい。理解できない人は理解できないままである。プロポーザルの評価基準に、信用力を追記いただきたい。今回の事業に市民センターなども入る予定であるので、信用力が一番重要だと考える。
- 事務局 審査の基準として配慮する。
- 委員 E 産業文化会館の機能を複合施設に移行する場合、産業文化会館が撤去されたエリアも含めて、この計画の中に組み入れるべきであると思う。撤去された後のエリアは、どのようなイメージであるのか。
- 事務局 まだ確定していない。アクセスを高める必要があるという認識はある。
- 委員 D 産業文化会館は、相当傷んでいる。継続して使用することは不可能。
- 委員 E エリアを総合的に考えるべき。その点も、デベロッパーの方に提案いただけないか。ゲートボールセンターも含めて。
- 事務局 まずは富山紡績跡地を重点に考えていく。
- 委員 C この計画が完成すれば多分すぐに考慮することになるだろう。
- 委員 A もし交流センターの倉庫が残るなら、倉庫を使いたい。行燈のものがすべて入っている。荷物をどこかに移せば宅地になり得るかもしれない。
- 委員 D 計画が頓挫したら、住宅地造成も考えていた。
- 委員 A 公園はどうなるのか。
- 事務局 採算性もあるため、規模は経済的な合理性に基づく規模となる。防災公園などの提案を期待している。
- 委員 C 公園を整備し、既存の公園と付け替えるという考えは、公共施設再編の考え方として、既存の施設を縮小し新たなものを開発するという考え方の離反していないと思うが、できないのか。
- 事務局 基本的に公園は十分に整備されている。多くの公園が利用者によって活用されているが、それでもまだ利用されていない公園もある。そのような公園をまずは利用していただきたいと考えている。まずは既存の公園を利用していただくことをお願いしたいというのが、私たちの市としてのスタンスである。
- 委員 D 良い土地であり、将来この地域が活性化するための最後の手段だと考えている。だからこそ、計画が中断することになったら非常に残念だと感じている。これまで若

手メンバーたちが築き上げてきたものを何とか形にしたいと思っている。それが可能かどうかを確認したい。

若手 もちろん実行する予定である。私がこの会議に呼ばれているのは、ここが地域の決定機関であり、ここでの承認がなければ実行できないからである。そもその計画自体が、見込みが立たないということであれば、新たな会議を設け、意見を再度持ち寄り、施設について話し合うことが適切である。今回の計画を作成する際には、声掛けは行ったが、皆さまに参加していただけなかったため、少人数での検討を余儀なくされた。地域に対してもこれまで何度も報告は行った。今度の住民説明会は行政が主導となって、説明を行う。ここまでの経緯についてご理解いただき、それでも見込みが立たない場合は、公共施設部分を今回の計画から外すなど、指針を決定していただきたい。

委員 B 井波地域も庁舎を活用したプランを策定したが、採算性が合わないため白紙に戻し、地域計画から見直している。だからこそ、地域計画から始めることが良い。また、市財産を本件の事業について出すため、多くの町民が納得できるような形で進められるべきである。若い人たちに注目しているが、地域の年配者たちは市の動きについて、疑問を持っている。基本的に、多くの市の予算を使う以上は公平であり、透明性が高い形で進められるべきである。

若手 その声を上げるために市議会議員が存在する。それを行政で、すべての住民の声を聞きながら進めるのは不可能ではないか。

委員 B しかし、基本的にはやはり公平に進められるべきである。公平を担保するというのは、例えば一部の民間事業者にも有利にならないように行うことである。

委員 A 民間と競合する事業は公金を用いて実施することはできないと以前から指摘されている。今回、12月に住民説明会が開催されるという情報を地域に伝えていましたが、結局実施せず信頼を失ってしまっている。そのため、地域に対して丁寧に説明することが必要だと考えている。適切な方法とタイミングで説明する必要がある。

会長 現在、公募を出すという説明しかできない。

委員 A 議事録などを地域に対して積極的に公開し、進捗（しんちよく）を発信していくべきである。

事務局 ホームページで公開している。

委員 A 紙媒体であれば目を通すため、広報などに掲載して欲しい。高齢者は紙媒体をよく見ている。回覧などを活用していただきたい。

事務局 何か対策を考えてみたいと思う。

委員 F 地域には代理人方式で進めることにご理解をお願いします。ホームページでの公開は、時代的に当たり前のことである。紙媒体ということであれば、中部の地域づくり協議会で、紙に印刷し直接見ていただくという方法も考えた方が良いと思う。

- 委員 G ファブリカ跡地での ORRACHA 構想が検討されていたが、決定事項がないため後から説明することになっていた。しかし、次の住民説明会でも詳細を差し控えると、いつ公表することになるのか。中部以外の地域では当事者意識がないため、周知が難しく、どのように説明すればよいのか。
- 委員 D このプロジェクトの規模は大きいため、魅力的な整備をして、そこにどれだけ民間の投資を呼び込むかが重要である。そのため、民間の投資を呼び込んだときのイメージを公表することには問題ないのではないか。
- 事務局 具体的な面積などは記載せず、イメージ図を出す予定である。
- 委員 C 構想の内容と公募をすることを伝え、今までとやり方が違うということを説明すればよいのではないか。
- 事務局 説明会では報告書に掲載されているパース図をお見せする予定である。また、事務局へパース図をお送りいただくと助かります。公表していただいても問題ない。
- 委員 A 市民センターの入居は絶対条件であり、中部交流センターは金額次第で入居するか決まるという話であったため、市民センターは必須条件と認識している。
- 委員 F 市民センターや産業文化会館は古いため、代替施設を建設すべきだというのが基本である。資料をご覧いただければ、その意図は理解いただけると思う。現在の課題は、皆様に代理人方式への変更を理解していただくことである。また、今後もある程度の変更がある可能性がある。
- 会長 市役所が公募し発注する立場についてもよく理解していただきたい。限られた住民しか参加しないかもしれないが、住民説明会を開催しよう。いったん、住民説明用の資料をいただきたいと思う。その後、どのように説明会を開催するのか地域づくり協議会で検討する。
- 事務局 先に会議の日程を決めていただければ、それに合わせて対応する。長い間議論していただいているので、私たちとしても迅速に進めたいと考えている。大変良い土地であり、皆様のご協力をいただきながら進めたいと思う。また、地域の方からの支援をお願いして進めるものと信じているので、皆様からの強力なバックアップをお願いする。市では早急に準備をして、進める。本日はありがとうございました。